報告
MELON事務局

環境教育の未来は

東北環境教育ミーティング参加報告

日　時：2003年10月17日（金）～19日（日）
場　所：栗駒自然学校（栗駒高原）
参加者：74名
テーマ：水と食
　　～東北から見えてくる水と食の環境未来
主　催：東北環境教育ネットワーク

東北環境教育ミーティングは、「水と食」のつながりを基調とし、NPO、NGO、環境教育関係者、学生、一般、子どもなど、様々な立場の方が参加しました。

オープンセッションは、「東北から見えてくる水と食の未来」をテーマにはじまり、ナイトセッションでは事例報告が行われました。2日目は体験型の分科会に各自わかれて学び、3日目は分科会報告と全体会を通して今回のミーティングを振り返りました。

私は分科会で「水といのちのまちづくり」に参加しました。

午前は水を浄化する仕組みから安全な水について学び、お昼はいわな料理に舌鼓、午後は自分達の望む「まち」を模型でつくりました。この分科会から「スローな水の研究会」が発足され持続可能な社会の実現に向けて活動が始まっています。

県内のNPO、NGO、行政、企業、市民が連帯し、地域ぐるみで環境教育をすすめていく仕組みと主体的行動が、宮城の未来を作っていく事につながると思いました。

来年の東北環境教育ミーティングは新潟で開催されます。

人間の勝手です

「くるみ割り人形」ならぬ「くるみ割り鴉（からす）」が話題になってから、わたしも何度か、自動車のわだちに確かめながら木の実を置くカラス君を目にしています。カラスは道具を作るなどと言う話も最近の雑誌で発表されたりしていますが、この賢いカラスからの被害を防ぐため、都会では大変な努力をしているようです。「そんなのカラスの勝手でしょ」といわれるかもしれませんが、そんな賢いカラスを見て私たちの生活を考えてみることができます。

カラスが都会に増えたのは、餌となるゴミが増えたからです。都会を中心に使い捨て、食べ残しが氾濫してきた1980年代から今『主流派』のハシブトガラスが急激に増えてきたといわれています。ちょっと日にちがたてば捨てられる、食べきれないほど作って捨てられる、おいしいところだけ食べて捨てられる。カラスにとっては、人間様様じゃないでしょうか。その上、みんな忙しくなってカラスを追い払ったりしません。そんなことより、少しでも長く寝ていたいし、足早に会社に向かいたいのですから。それにねぐらに帰る森も遠くなってしまった。ああなんて！「にんげんの勝手でしょ」。

「カラスの四季」（デボラ・キング作・絵、串田孫一 訳、佑学社）は牧歌的なカラスのようすを伝えていますが、「カラスがまちにすんでいる」（唐沢孝一作、竹井秀男 絵、福音館書店「かがくのとも」1990年11月号）も読んでみましょうか。

第4のクンレン

朝起きたら、ベッドから起きあがりながら、新聞でも雑誌でも広告でもおよそ枕元にある物なら、声を出して読んでみましょう。朝の支度をしながら読んでみましょう。自分の気に入った文章があったなら切り取って、足を止めるところの壁に貼り付けておきましょう。